

## 第8回 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理委員会記録

日 時 平成30年2月8日(木)

午後7時～8時

場 所 田無総合福祉センター第1会議室

<出席委員>伊田昌行委員、伊藤正子委員、熊田博喜委員、土方孝一郎委員、三輪秀民委員  
(以上5名)

<事務局>池田正幸(事務局長)、丸木 敦(総務課長)、鶴野浩至(総務課主幹)  
小平勝一(福祉活動推進課長)、妻屋良男(福祉活動推進課長補佐)  
浜名幹男(福祉支援課長)、小口浩司(法人運営係長)

<会議次第>

1. 事務局長あいさつ(会長欠席のため代理として事務局長よりあいさつ)

事務局長:お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日は、3部会の進捗状況および29年度の進捗状況についてご検討いただきたい。また、第四次計画のアンケート集計結果、地区懇談会、関係者懇談会を開催しているので、速報的な内容を報告したい。

<議 題>

1. 前回議事録の確認

事 務 局:委員より修正意見があったので、後ほど確認し、修正したい。

事 務 局:他に修正意見があれば、2月15日(木)までに事務局へ連絡してほしい。

☆期日までに修正等の連絡が無かったことにより、記録案を確定稿とする。

○事務局より配布資料の確認、説明を行う。

2. 平成28年度 各推進部会の取り組み及び進行管理表の検討について

(報告及び意見交換)

○事務局より資料2の前回と異なる箇所を説明。

事 務 局:資料2は、すでに提示している資料からアクションの部分を省略した内容になっている。また、資料3は、各取り組みに共通する意見が多かったため、各部会の活動の柱を取りまとめて、各部会の取り組みについてのアクションを掲載している。

(1)居場所づくり部会

○事務局より資料の説明をする。(前回資料との修正点についての説明)

(2)人材部会

○事務局より資料の説明をする。(前回資料との修正点についての説明)

### (3)情報部会

○事務局より資料の説明をする。(前回資料との修正点についての説明)

委員長：前回、細かく内容は確認いただいているので、アクションの柱の部分について何かご意見をいただきたい。

情報部会のページで「意識ある自治会」とあるが、どのような自治会のことを言っているか。

事務局：情報部会の活動に積極的に取り組んでいただける自治会を「意識のある」という表現にしている。

委員：あくまでも平成28年度の取り組みに対する評価になるので、これで良いのでは。

事務局：他にご意見が無ければ、進行管理表については、この内容でよろしいか。

**<平成28年度進行管理表について一同承認により確定>**

### 3. 各部会の進捗状況について(平成29年10月以降)

○事務局より説明する。

#### (1)居場所づくり部会

事務局：サロン立ち上げ講座を社協と一緒にいき、実際にサロンを立ち上げたいという方々の見学会を実施した。

フェイスブックの取り組みを3部会で取り組んでいる。毎週水曜日にサロン活動を行っており、10月も通常どおりサロン活動を行っている。

11月には9月に実施した講座の受講者がサロンを立ち上げた。マニュアルをバージョンアップさせるための修正作業を11月から行なっている。資料中の写真は、修正箇所を示したものである。1月には、サロン活動や子ども食堂等を対象とした、「実施するまで参加者を特定できない取り組み」について、東社協が加入できる保険を開始したことを情報提供している。不特定多数の人を対象とした保険になるので、誰でも来られる居場所を運営する方にとって適している保険だと思われる。

#### (2)人材部会

事務局：人材リストを可視化することと、地道な人材を発掘、確保することに取り組んでいる。ボラセンと協議しながら可視化を進めている。

これまで人材リストで取り上げてきた方々は一芸に秀でる人が多かったが、地域には、地域で役に立ちたいという人もいるはずということから、地道な人材の確保を進めている。イメージとしては、ふれまち助け合い活動のような、ちょっとしたお手伝いをしてくれる人材を求めているというところから話を進めている。

写真については、登録者による講演会の様子である。

#### (3)情報部会

事務局：デジタルな発信は、フェイスブックの活用に取り組み、操作方法の講習やルールづく

りを行なっている。

アナログの取り組みについては、下宿自治会と関わりを持ち、地道ではあるが関係づくりを進めている。9月には新規モデル地区である集合住宅でアンケートの実施を検討している。ファミリー層（若い世代）へ回覧板の必要性についてアンケートを行なう予定。11～12月に宅建協会に協力を求め、集合住宅の情報の提供を求めている。

写真は、情報部会の話し合いの場面である。

委員：マニュアルの修正中で、3月末には終了する予定である。

情報部会でアンケートを行う際に、よってらっしゃいのチラシを情報部会の協力を得て配布する予定である。

委員長：キャパシティの問題もあるので、あまり多くの人が来られても困るのではないか。

委員：既存の参加者の他に、新たな参加者を増やしていきたいと考えている。

委員：人材部会で取り組まれている地道な人材の発掘とは、行事を行う際の手伝いをする人も含めているのか。

事務局：そういう人材も発掘していきたい。

委員長：芸能的な人材だけではなく、ふれまち助け合い活動でのお手伝いいただける人材も大切だと思う。

委員：情報部会について、今だからこそアナログが大事であるということを何かの記事で読んだが、下宿自治会での取り組みの具体的な内容はどのようなものか。

事務局：下宿自治会では広報紙をつくり、回覧板が回っていたが、つながりは広がっていないように感じた。情報部会では自治会と一緒に取り組むことで、自治会への加入者が増えたり、自治会に魅力を感じてもらえる人が増えたりすることを目標としている。去年は、自治会との関わりの中で夏祭りに参加することで関係づくりを進めている。既存の自治会は高齢化が進んでおり、対応する人も高齢化している。回覧板で求めたいつながり、顔の見える関係は、下宿自治会ではある程度できている。集合住宅に住むファミリー層は、子どもを介したつながり以外に、実際に地域とのつながりがあるのだろうかという話が部会の中で出てきており、そこでアナログな情報を通じてつながるきっかけにならないかということが、新たなモデル地区の考え方である。

委員長：今までの関わりの中で、自治会への加入者が増えているのか。

事務局：増えてはいない。

委員長：ネットワークが強化されているということか。

事務局：そうである。

副委員長：自治会では、情報部会が作成したものを回覧板で回しているのか。

事務局：自治会で作成しているものを回している。

回覧板には、従来顔を合わせながら手渡して安否確認の意味も含まれていたが、手渡しせずにポストに入れてしまうということがあり、自治会としては物足りなさを感じていたようである。アンケートをすることで、その場面を使いながら人と人と

が実際に顔を合わせて行ったものである。

副委員長：回覧板を回すことで新規加入者を増やす工夫とはどのようなものか。

事務局：回覧板を介してでは、新規加入者を増やすことにはつながっていないが、アンケートについては、脱会した人へも行い、その人が再入会することを狙った。

委員長：居場所部会では、すでにひとつ居場所を立ち上げ、マニュアルを作成したことが成果であり、人材部会では人材リストを可視化し、登録者をコーディネートして活動につなげていることが成果であり、情報部会ではアンケートを行い、回覧板を実施しながら自治会の強化と新規の開拓が行われていることが成果である。このように、成果を絞った形で、次回の進行管理委員会に提示されることと思う。かなり計画が形になってきた印象を持っている。

副委員長：アンケートの結果はどうだったのか。集合住宅の何世帯に配布するのか。

事務局：今検討しているところだが、メガマンションにおいて了解が得られると500世帯くらいになる。アンケートの回収方法を検討しているところだが、管理組合が協力してくれるところはよい、そうでないところは難しいので、スマホで回答できるような方法も考えている。

実施時期はそれぞれの集合住宅ごとに設定することになるが、2月後半に実施したいと考えている。

#### 4. 第四次西東京市地域福祉活動計画策定委員会進捗状況について

事務局：7月に策定委員会を設置し、既に3回開催している。

##### (1)第四次西東京市地域福祉活動計画策定のための市民アンケート集計結果

事務局：市民アンケート調査は、社協関係者1,500件に配布し、回収率は54%となっており、前回よりも回収率は増加している。

##### (2)地区懇談会（市・社協合同開催）、保健・医療・福祉関係者懇談会の開催について

事務局：地区懇談会では、西東京市と合同で開催している。4圏域で各3回懇談会を開催し、最後に4圏域合同で発表会を開催する。西部圏域は降雪のため2回の実施としたが、それぞれ20人以上の参加を得て活発に意見交換ができた。

共通の課題は、近所の関わりが希薄化していること、情報が届かないこと、自治会の減少、地域人材の不足、地域の居場所が少ないこと等が挙げられた。

保健・医療・福祉関係者懇談会については、1月29日に開催し、21の関係機関の職員の参加を得た。（内社協職員6人）

事前アンケートを行い、課題を抽出して集約した。その結果から3つのテーマを設定し、カードワークとフィッシュボール方式で話し合った。

委員長：市民アンケートについてはご覧いただき、ご不明な点をご質問いただければと思う。移動手段と買い物の課題は、多く出されている。この課題を地域福祉活動計画にどのように反映させていくかを考える必要がある。

委員：居場所が少ないということだが、サロン活動は相当やっていると思う。

委員長：ニーズが細分化していて、それに応えられていないということなのではないか。数が足りないということではないと思う。自分が行きたいサロンが見つからないということなのではないか。

委員：保健、医療、福祉関係者懇談会の資料には、市内の医療機関の参加が書かれているが、医療機関としての意見はどこか。

事務局：まだ、まとめが出来てはいないので、最終版ができ次第ご覧いただきたい。

委員長：大事なことが意見で出されている。本人の自覚がないので生活が困窮していく。そのことに誰が気づくのか等、きちんと整理し、第四次の計画に反映させていく必要があると感じた。

委員：交流、居場所について、あまり大きくPRをしてはいないが、よってらっしゃいでは街中いこいなサロンとして世代間交流を行っている。

先般谷戸小学校の広報担当が取材に来た。世代間交流を行うには父兄の理解も必要だと感じている。今後の運営にも影響があると思う。

委員長：マニュアルに世代間交流の実践についても記載してほしい。

委員：地区懇談会で印象的なことは何か。

事務局：地域的なことになるが、環境的な課題が出されており、生活難民という言葉も出されていた。

ピンポイントでこのことに困っているというよりも、生活全般で生活がしづらくなっている人がたくさんいるということでこの言葉が使われたことが印象的であった。

## 5. 今後のタイムスケジュールについて

○次回以降の委員会日程：平成30年6月

事務局：委員長と調整の上お知らせする。

副委員長：これで終了する。